



ツアー客が乗る列車を見送る市民ら

地域色を出したおもてなし

4月17日、JR東日本が運行する「トランスイート四季島」の乗客が今年初めてJR木造駅を訪れ、地域住民約20人がお出迎えしました。四季島は東日本をクルーズする寝台列車で、平成29年5月に運行を開始。沿線では、乗客を歓迎し地域の魅力をPRしようと、各地の特色を出した催しが行われています。

この日は、新青森駅からバスで移動する一行を市登山囃子保存会(花田了会長)のメンバーが登山囃子の演奏で歓迎。そのほか、つがるちゃんと一緒につがるちゃんに扮した神葵葉ちゃん(5才)が乗客と交流するなどして、最後は列車で出発する一行にみんなで手を振り見送りました。

この催しは10月2日まで毎週水曜日に行われます。

明るい社会づくりへ一丸

4月19日、つがる警察署で「春の安全・安心まちづくり推進大会」が開催され、防犯ボランティア団体や警察官ら約80人が、明るく住みよいまちづくりに向けて決意を新たにしました。

大会では、手嶋成信防犯指導隊総隊長による決意表明に続き、市JUMPチームを代表して稲葉奏さん(木造高3年)が「自分たちの力を発揮し、非行のない明るい社会づくりに貢献することを決意します」と宣言しました。

大会後には、青色回転灯を装着した自主防犯パトロール隊の車両が市内を巡回したほか、イオンモールつがる柏ではJUMPチームらが啓発活動を行い、市民に防犯意識の向上を呼びかけました。



非行防止決意宣言をする稲葉さん



受賞を報告した皆さん

柏小が文部科学大臣表彰

子どもの読書活動推進の優れた取り組みが認められ、柏小(神彰彦校長)が本年度の文部科学大臣表彰を受賞し、4月24日、葛西教育長に報告しました。

同校では児童の読書活動充実のため、図書担当の若松由花先生や11人で構成された図書委員会が中心となり、全校児童が本を手に取りやすくなる環境づくりに努めています。

神校長は「先生方や子どもたちが、総力をあげて地道に取り組んできた成果が認められたもの」と報告。図書委員長の新谷仁那さん(6年)は「もっとたくさん本をみんなが楽しく読めるように、図書委員として活動していきたい」と意気込んでいました。

楽しみながら図書館体験

4月30日、市立図書館で「あつまれ新1年生!図書館ツアー」が行われ、小学校1年生らが、図書館の使い方やマナーを学びました。

子どもたちに図書館を身近に感じてもらおうと初めて開催したツアー。児童らは、スタッフから紙芝居を使って分かりやすく図書館のルールなどについて説明を受けた後、スタッフの案内で館内を探検。図書検索機やレシートを使った本探しゲームも行われ、楽しみながら図書館を体験しました。

工藤璃乃(柏小1年)さんは「本がいっぱいで楽しかった。読みたい本を見つけたから借りてみたい」と楽しみにしていました。



スタッフの説明を聞く子どもたち

遺跡の価値を伝えたい！

市教委は、観光客の増加が見込まれる10連休に亀ヶ岡遺跡と田小屋野貝塚を案内するボランティアガイドの導入を試みました。4月30日、この日は仮設の案内所と竪穴住居跡などに設置した説明板を巡りながら、6人のガイドが観光客を案内。遺跡の詳しい内容については学芸員から解説を受け、ポイントを確認しました。

羽石智治学芸員は「発掘調査後、保存のために埋め戻された遺跡の内容は来訪者に伝わりにくい状態。遺跡の価値と見所を適切に伝えるため、今回の試みで課題を洗い出し、今後のガイド体制づくりや史跡整備に生かしたい」と話していました。



羽石学芸員(左)とガイドのポイントを確認するボランティアガイドの皆さん

地域との関係を発展させていく

5月10日、米陸軍車力通信所の所長が交代し、新たにジョン・ナスラス少佐が所長に就任しました。少佐は米国インディアナ州からの着任で、そこでは砲兵大隊の副隊長を務めていました。

所長交代に先立ち5月8日、ナスラス少佐が福島市長に着任のあいさつ。少佐は「ここでの仕事を楽しみにしている。地域とのいい関係を発展させていきたい」と抱負を述べ、福島市長は「地元と協力しながらやってもらいたい」と話していました。

この日は、離任するフランス・ダルー少佐も同行し「約1年間、優しいおもてなしに感銘を受けた。車力での経験を将来の糧としたい」と感謝の言葉を話していました。ダルー少佐は、米国オクラホマ州へ赴任します。



来庁したナスラス少佐(右)とダルー少佐(中央)

交通事故防止に邁進

春の全国交通安全運動(5月11日~5月20日)を前に、5月10日、つがる市民交通安全防止総決起大会が松の館で開催されました。大会では、つがる地区交通安全協会の片山徳明会長が「交通安全は私たちの最も身近な問題。日々向上していくよう皆さまのご協力をお願いします」とあいさつ。同協会の館岡支部、森田支部の子ども交通指導隊メンバーが、それぞれ寸劇や踊りを披露し「交通ルールを守ります」「命を大切にします」などと誓いました。最後に、参加者を代表して交通安全母の会連合会の山本薫会長が「交通事故防止に邁進します」と交通安全宣言をし、参加した約100人の市民らが、交通事故のない社会の実現へ向け決意を新たにしました。



交通安全を誓ったもりた保育園子ども交通指導隊

基幹産業を支える稲作農家を激励

稲作農家の生産意欲の高揚を図ろうと5月17日、福島市長をはじめ西北地域県民局、農協関係者らが、市内を巡回して田植え作業中の生産者を督励しました。

この日一行は、木造地区の杉野森元一さんと盛政太さんの水田を訪問。どちらも順調に作業が進んでいることを確認し、今後の適切な水管理や除草剤の使用法など栽培技術について指導していました。

督励後、福島市長は「生産者の皆さんに事故がなく、異常気象などの自然災害もないことを願っている。去年は収量が少なかったため、今年は平年以上の出来秋を迎えてほしい」と期待していました。



作業状況を説明する盛さん